

2. 火山の概況 (平成 15 年 7 月 17 日 ~ 平成 15 年 7 月 23 日)

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。阿蘇山では中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発であった。桜島、薩摩硫黄島では噴火があった。諏訪之瀬島では微動があった。

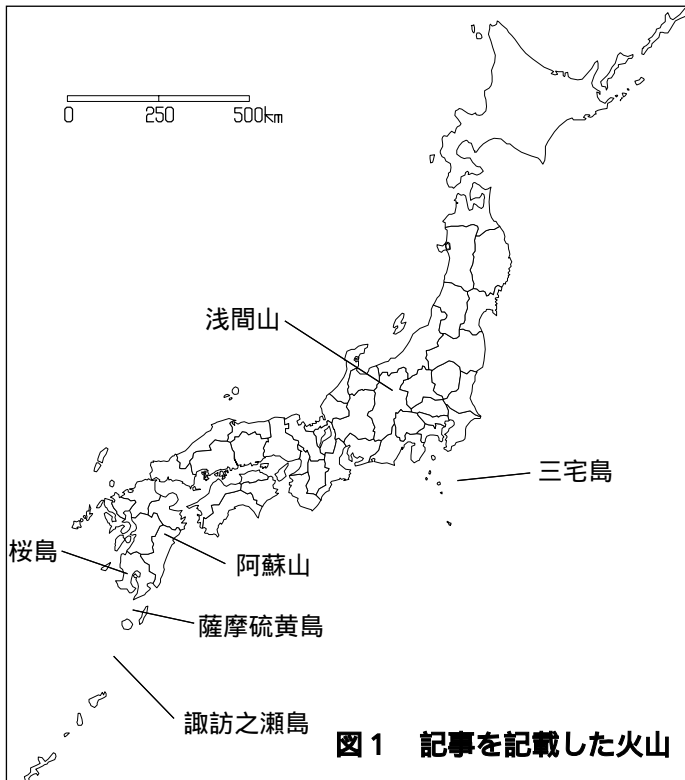


表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	樽前山	蔵王山	浅間山	伊豆東部火山群	三宅島	阿蘇山	桜島	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島
30	7/17- 7/23									
29	7/10- 7/16									
28	7/ 3- 7/ 9									
27	6/26- 7/ 2									
26	6/19- 6/25									

注 1 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：観測データ等に变化があった火山
- ：前期間までに掲載した火山の、その後の状況等

注 2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

浅間山 [地震・微動・熱]

6 月末頃から、やや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、7 月 5 日～8 日に 1 日当たりの観測回数が 80 回を超える状態となり、その後もやや多い状態が継続しており、今期間は 1 日あたり 45～82 回観測された。また、振幅の小さい微動は 8 回観測された。

山麓の監視カメラでは、噴煙は雲のためほとんどの期間観測できなかったが、20 日には火口縁上 300 m まで上がっているのが観測された。

群馬県林務部設置の高感度カメラ及び赤外カメラによる火口内の観測も、雲のため観測された期間は短かったが、火口底が明るくなる現象は引き続き見られた。

GPS による地殻変動観測では、特に異常な変化は観測されなかった。

三宅島 [火山ガス・噴煙・地震]

22 日に気象庁が行った火山ガス観測¹⁾では、二酸化硫黄の放出量は日量 6,700～11,000 トンと、長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった(図 2)。

また、同時に気象庁、産業技術総合研究所及び大学合同観測班が行った上空からの観測¹⁾では、主火口からの白色噴煙の放出が継続し、火山ガスを含む青白い噴煙が火口上空から南西へ流れていた。山体の地形や火口の状況等は、雲による視界不良のため確認できなかった。

監視カメラによる観測では、白色噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口縁上 500m (19 日)であった(前期間 600m)。

振幅の小さいやや低周波の地震が一時やや多くなり、18 日には 55 回発生したが、噴煙の状況等その他の観測データに変化はみられなかった。期間中、規模の大きな低周波地震は発生しなかった。

GPS による地殻変動観測では、三宅島の収縮を示していた地殻変動は収まっている。

1) 東京消防庁の協力による

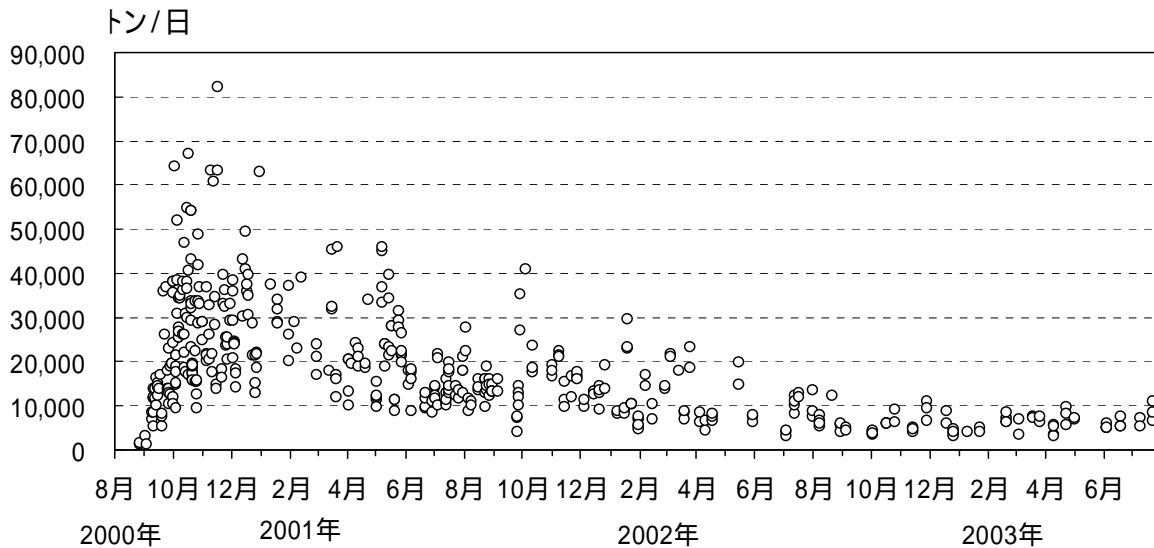


図2 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移（2000年8月26日～2003年7月22日）

阿蘇山 [熱・地震・微動]

前期間の10日、12日（2回）、14日に計4回観測された土砂噴出に伴うとみられる震動は、今期間は観測されなかった。

中岳第一火口内の状況は、17日、22日に実施した現地観測によると、湯だまりの色は灰色で茶色の浮遊物があり、中央部で噴湯現象が認められた。湯量は17日には9割に減少していたが、大雨のため22日には10割となっていた。湯だまり表面温度の最高は77（前回（15日）79）と依然高い状態が続いている。

噴煙の状況は、少量の白色噴煙が連続的に噴出しており、最高は火口縁上500mであった（前期間も500m）。

微小なB型地震は今期間もやや多い状態が続き、日回数は4～22回、合計は95回であった（前期間は117回）。また、孤立型微動はやや増加し、日回数は30～98回、合計は439回であった（前期間は384回）。A型地震の発生状況、地殻変動等その他の観測データには異常な変化は観測されなかった。

桜島 [噴煙]

期間中、噴火が1回あった。爆発はなかった（前期間は噴火1回（爆発））。噴煙高度の最高は1,500m（灰白色）であった。鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）で降灰は観測されなかった（前期間もなし）。

薩摩硫黄島 [微動・噴煙・降灰]

15日11時44分に始まった連続微動がほぼ全期間にわたって継続し、火山活動はやや活発な状態で推移した。

監視カメラによる観測では、17日に火山灰を含む灰白色の噴煙が最高で火口縁上500mまで上がるのが確認された。

鹿児島中央警察署硫黄島駐在所によると、島内の集落（硫黄岳の西約3km）で17日に少量の降灰が確認された。

諏訪之瀬島 [地震・微動]

今期間、爆発はなかった。また、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、島内の集落（御岳の南南西約4km）では降灰は確認されなかった。監視カメラによる観測では、噴煙の最高高度は火口縁上300mであった（前期間は400m）。

微小なB型地震が22日に一時増加し、日回数は108回となった。今期間の発生回数は288回であっ

た（前期間は 85 回）。また、連続微動が全期間にわたって継続した。

表 2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 10 号	18 日 16:00	微小な地震がやや多い状態が継続。
三宅島	火山観測情報第 392 号 (1 日 2 回発表)	17 日 09:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第 405 号	23 日 16:30	